

「継承」

美馬郡医師会長 谷 口 博 美



今年4月に皆様方のご推挙をいただき、美馬郡医師会会长・県医師会理事の重責を引継ぎ早や半年が過ぎました。明治18年から数えますと23代目（戦後8代目）の会長にあたるそうですが、歴代会長のご業績を顧みますとそのご苦労はいかばかりであったかと推察されます。近年の歴代会長がご腐心なされてきた一つに、「会員間のコミュニケーションの充実・会員相互の理解と協調を計る」ことが掲げられます。

平成2年4月にファクシミリによる郡内全医療機関情報網が設置されたのを機に、医師会からの発信のみでなく、各医療機関の会員・職員から隨想、詩歌、俳句、書画などの作品を集めて「FAXまつり」を企画され、会員間の親睦手段として多大な成果を認められました。その後平成8年に「美馬郡医師会20年史」が発刊されました。これは美馬郡内の医療の歴史書とも評された「美馬郡医事史」（昭和49年発刊）以後の20年間の医師会活動の状況を、会員自らの手で執筆・編集されたものでした。そして21世紀の初頭を機に、美馬郡医師会報「てあて」が和田昇前会長のご決意のもと創刊されました。この「てあて」の発刊にあたり、先生は「FAXまつり」の新鮮さと暖かさを継承し、会員相互にやすらぎと地域医療に懸ける力を与えてくれる会報として育ってくれることを念願している」と述べられておられます。その先生は今年5月15日急逝されましたが、先生の残された数多くのご業績は私共の誇りであり、厚く御礼申し上げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

今回ゲストコーナーには美馬町の生んだご高僧千葉乗隆師にお願いしましたところ、快く玉稿をお寄せいただきました。温かさにあふれた師のご法話にはいつも感銘を受けますが、このたびは親鸞の言葉「世界中のいのちあるものはすべて血のつながった父母兄弟である」をご紹介いただきました。この「てあて」が父母兄弟の温かさにつつまれた形で、故和田先生の貴重な遺産として発展・継承されていくことを願ってやみません。

医療環境は介護保険のスタートとともに病院・診療所・介護老人保健施設・介護老人福祉施設等のそれぞれの役割分担が進み、私達「かかりつけ医」としての立場に大きな変動がおこりました。また行政環境も現在の美馬郡7町村は「美馬市」と「つるぎ町」に再編され、郡全体でおこなわれてきた在宅当番医制度、介護認定審査会、予防接種、検診など地域保健医療の医師会活動にも不透明な部分が多くなりました。当医師会内でも、定款変更、地域保健医療参画指針、過剰情報の整理、医師連盟への取組み、政府による一連の医療制度改革への対応など難問が山積し始めました。そして、時として会員間に利害が相反する事例も多くなりつつあるように思います。

このように会員間の環境が大きく変動するときにこそ、会員間の情報共有・意見交換・意志疎通などをより一層深め、歴代会長がご腐心された美馬郡医師会の伝統（強固な団結・相互理解と協調）を守りつつ、この地域の特性を生かした活発な医師会として継承していきたいと願っております。

最後になりましたが今回もご多忙の中、編集の勞をおとりいただきました斎木喬編集長はじめ編集委員の先生方に厚く御礼申し上げます。